

東北大学教育学研究科 教員対象 ハラスメント研修会
「つくろう、ハラスメントのないキャンパス 2010」

実施報告書

大学院教育学研究科ハラスメント防止対策委員会

宮腰 英一（委員長）
本郷 一夫（委員）
田中 真理（委員）
中島 信博（委員）
工藤 与志文（委員）
菅原 正記（事務長）
加藤 道代（副委員長）

2010 年 7 月

東北大学教育学研究科ハラスメント研修会
「つくろう、ハラスメントのないキャンパス 2010」実施内容

この研修会は大学院教育学研究科ハラスメント防止対策委員会が主催し、本研究科の教員を対象に行われた。実施内容等は以下のとおりであった。

日 時： 2010 年 7 月 21 日（水）16：00-17：30
場 所： 文科系総合研究棟 11 階大会議室
内 容： 留学生の相談・支援体制について、ハラスメント防止について
講 師： 吉武清實教授（高等教育開発推進センター・臨床心理士）の講話
参加者： 教員 27 名、事務職員 4 名
主 催： 教育学研究科ハラスメント防止委員会

内容の骨子

留学生の相談、支援について

- ・ 生活相談は、部局や全学の国際交流センターが中心となる。
- ・ メンタルヘルス相談は、学生相談所、保健管理センターが中心となり、部局との連携も必要となる。
- ・ ハラスメント相談は、学生相談所・ハラスメント全学学生相談窓口が対応している。

留学生の相談、支援における課題

- ・ 英語で相談対応のできるスタッフや、メンタルヘルスの専門的知識をもつ通訳の重要性
- ・ 部局との連携の強化

危機事例の対応として

- ・ 症状が重い場合は、母国に帰ってもらうことも重要な解決法のひとつとなる。
- ・ 帰国をサポートするとともに、帰国先での待ち受け態勢づくりも重要
- ・ 学部・研究科、研究室、家族、学生相談所、保健管理センター、その他の支援資源が有効な連携をとることが重要

留学生の大学生活支援上の諸問題

- ・ 安易な留学生の受け入れや、十分な説明のないところでの受け入れの問題
- ・ 十分な研究指導の無いことに対する不信やトラブル
- ・ 異文化適応支援体制の問題
- ・ G30 による日本語力のない学生の増加への対応
- ・ 全学によるサービスと部局によるサービスの連続
- ・ 他部局の取組みなども参考にしながら質的にも量的にも伴ったサービス力を向上していく必要性

ハラスメント問題の予防と対応

アンケート調査結果のまとめ

1 アンケートの内容

設問 本日の研修についていかがいます。あなたの考えに近い数字を○で囲んで下さい。

【1】本日の研修内容は、役にたちそうですか。

(たいへん役にたちそう 6 から、全然役にたたなそう 1 までの 6 段階評定)

【2】本日の研修企画は、意義があると思いますか。

(たいへん意義があった 6 ~ 全然意義がなかった 1)

【3】本日のような研修企画を、本学部・研究科が今後も継続することについてどう思いますか。

(ぜひ継続すべき 6 ~ まったく継続の必要性はない 1)

【4】本日のハラスメント研修に関して意見や感想がありましたらお書きください。

(自由記述)

設問 今後のハラスメント防止対策に期待することなど、意見や感想がありましたらご記入ください。(自由記述)

2 アンケートへの回答の集計

2-1 回答の概況

- ・回答者数 19 名；うち 1 名は設問 【1】から【3】に無回答

2-2 設問 の【1】～【3】の各項目についての評定値の分布は Table1 のとおりであった。

Table 1 設問 の項目別評定値の分布 —数値は人数（回答者中に占める百分率）—

項目	評定値 6	5	4	3	2 以下	計
1 役に立つ	5(27.7)	7(38.8)	4(22.2)	2(11.1)	0(0.0)	18 (100)
2 意義がある	9(50.0)	4(22.2)	4(22.2)	1(5.5)	0(0.0)	18 (100)
3 継続すべき	9(50.0)	4(22.2)	2(11.1)	3(16.6)	0(0.0)	18 (100)

2-3 設問 の 4 に対する回答（自由記述；9 件）

A 具体的な情報が得られたとするもの（3 件）

- ・留学生を含む学生カルテについて作成してみようと思う。
- ・後半 3 分の 1 はこれまでの FD でも聞いたことのある内容でしたが、忘れていることも多く、役に立ちました。
- ・とても信じがたい事例が多いという感想を持ちました。

B 講話内容についての要望・意見、プレゼンテーションの進め方に関するもの等（6 件）

- ・教員がトラブルに直面した時のための対応リーフレットや対応カードが手元にあると良いのではと感じた。
- ・教員独自の FD や意識改革といった面だけでなく、本日のような話題を基として研究科全体での学生指導のあり方について検討しても良いのではないのでしょうか。
- ・スライドが多すぎる。具体例を紹介して欲しい。教員がすぐにできる behavior を示してほしい。
- ・ハラスメントを起こさせない管理体制のあり方について詳しく話して欲しかった。
- ・現に問題が具体的に出来している時に、研修での啓蒙活動に努めることは意義がないとは言わないまでも、実効性は極めて低いであろう。吉武先生には、これまで FD でお話いただいているが、むしろ、現実起きた問題をなぜ防げなかったのか、対

応し得なかったのかの原因を探る組織のメンバーに加わって、これまでの識見・経験を活かしていただく方がよいであろう。

- ・留学生に関する話しは面白かったが、最後のハラスメントの話は冗長。

2-4. 設問 に対する回答（自由記述；3件）

- ・現に問題が具体的に出来している時に、研修での啓蒙活動に努めることは意義がないとは言わないまでも、実効性は極めて低いであろう。吉武先生には、これまでFDでお話いただいているが、むしろ、現実起きた問題をなぜ防げなかったのか、対応し得なかったのかの原因を探る組織のメンバーに加わって、これまでの識見・経験を活かしていただく方がよいであろう。「アンケート」をとるよりも、体を動かして問題に対する方が重要では？
- ・処罰規定をより明確にすべきである。（嚴重注意と懲戒との関係等）
- ・森有礼は「道具責め」という言葉を用いた。何万回徳目を唱えるよりも、より具体的なシステムや仕組みあるいは実際の物を利用して行動・活動を行うことにより、ある種の価値を身につけるということです。ここが問題なのではないでしょうか。

3 まとめ

3-1 今回のFD研修についての評価

事後アンケートでの質問項目Ⅰの【2】【3】について、回答者の72%以上が「6」または「5」の評定を下したことから、この種のFD研修について、その意義や継続の必要性を認める意見が主流であることがわかる。その一方で、【1】に対しては66%とやや低く、特に「6」の評定を下した人が27%にとどまった。FD研修の有効性に対しては、やや厳しい評価を下す人が増えている可能性がある。

3-2 今後のFD研修のあり方についての意見

学生指導のあり方に関する研究科内での検討、現実起きた問題への具体的対応など、FD研修の域を越えた取り組みに対する要望がみられた。